

青少年育成稲敷市民会議



発行 》青少年育成稲敷市民会議
事務局 》稲敷市教育委員会
生涯学習課内
TEL 029-892-2000(代)
会員数 》9,104世帯(平成30年度)

わかくさ

W A K A K U S A

2019.03
No.28



〈題名〉 思い出の場所 古渡小学校 6年 本橋 梨心 さん



主張発表後、東中学校吹奏楽部29名による吹奏楽を披露してくれました。1曲目の「アフリカンシンフォニー」では力強さ。「激流の中へ」では穏やかな曲調から躍動感のある曲調への変化。会場で聴いていた参加者の心に残る素晴らしい演奏でした。



平成30年11月18日(日)、江戸崎公民館において青少年の主張大会が開催されました。小学生4名、中学生8名、高校生2名、計14名の青少年がそれぞれの思いを力強く表現し、素晴らしい主張を繰り広げました。

稲敷市 青少年の 主張大会 の ダイジェスト

第13回

未来を担う青少年の声をお聞きください

小学生の部

1 陸上を通して学んだ事

高田小 六年 稲箸 柑南

私は、三年生から陸上を始め、五年生のときに初めて挫折を経験して練習の大切さを学びました。この時の悔しさと仲間の優しさのおかげで、今年六月の県大会では走り高跳びで優勝、全国大会では六位になることができました。私が陸上をできるのは、たくさんの方の応援があるからです。これからも陸上で学んだことを生かして生活したいと思います。

2 「命」を考える

新利根小 六年 宮本 舞

「戦争がなかったら、舞は生まれていないかも知れないよ」祖母にこう言われて、私は命の尊さを考えました。

学年が上がるにつれて「尊い命を大切にする」「医師になる夢が大きくなり、私が出会った二人のお医者さんから、温かい心は人を元気にする力があるこ

3 住みやすい浮島を守るために

浮島小 六年 宮本 美穂

地球温暖化の関係で異常気象になり、浮島のスイカや野菜の育ちが悪くなりました。

地球温暖化を止めるには、自動車の利用量や電気の利用量を減らす一人一人の小さな行いが必要です。

こつこつと積み重ねる小さな努力が実り、安心して生活できる地球になってもらいたいと強く願っています。

4 努力は自信の源

あずま東小 六年 山口 鈴紗

母にすすめられてミニバスケットボールを始めました。初めての自主練習の日に、「コーチからの「自分の打てる範囲を探せ」という言葉で私の「やる気」に火がつけました。

練習するたびに、反省点が見つかり、さらに「努力」することが「自信」になります。コーチの言葉はきびしいけれど、自分が生きていく上で大切なことを教えてくれます。これからも努力を続けていきたいと思っています。

中学生の部

5 協力から学んだこと

江戸崎中 二年 岡野 由依

江戸崎中学校では毎年、合唱コンクールが行われています。私は昨年、クラスの中でパートリーダーという役になりました。毎日練習をしたのですが、他のクラスの方が一体感がありました。そこで、先生に相談したり、パートリーダーで集まってみんなが一つになる方法を考えました。その結果全員の心が一つになって、合唱後のみんなの表情からは達成感が感じられました。

6 「人として」を大切に

江戸崎中 三年 石川 智尋

私は看護師になりたいという夢もっています。

三年生になり、新しい担任の先生から「人として」という言葉を大切にしてほしいと言われ、心に強く響きました。今の私が看護師になるためには足りないことがたくさんありますが、「人として」今一番近くにいる人たちを大切にしていきたいです。

7 広がる世界、 変わっていく私

新利根中 二年 遠藤 理緒

小学校時代は限られた友達との交流がほとんどでしたが、中学校で吹奏楽部に入部して、様々な行事やコンクールのための練習を通して、私の世界がどんどん広がっていくと感じました。

私はこれから高校、大学に進学して、変化する環境の中で、様々なことに挑戦し、自分の世界や可能性を広げたいと思います。

8 病気になって学んだこと

新利根中 二年 中村 和寛

中学一年ももうじき終わるという時期に、僕は、脳出血で入院しました。この夏休みに、東京の病院で治療を受け、無事に治りました。

この体験を通して、健康でいられることのありがたさ、周りのたくさんの人たちに支えられているということに気がきました。病気になったからこそ分かったこの二つの思いを、これからの生活に生かしていきたいと思っています。

9 部活動の体験を通して

桜川中 三年 宮本 雄太

私は、一年生から三年生までソフトテニス部で活動しました。二年生の後半、先輩方がいなくなり、しっかりとなくはないと思いはじめました。うまくい

かないときでも、「次へ、次へ」という気持ちで頑張りました。

この体験で、「やってみよう」というチャレンジ精神ができ、さらに、自分から積極的に挨拶したり自分に自信を持ち堂々と過ごせるようになりました。

10 会話の大切さ

桜川中 三年 根本ころ

私の家では、通常、テレビをつけません。テレビをつけていないというだけで、多くの会話が生まれます。

世の中が、インターネットなどで便利になればなるほど、人との会話がなくなるかもしれません。しかし、近年のトラブルの多くは、顔の見えない相手と文字だけのやりとりで発生しています。「ありがとう」の文字より「ありがとう」の表情と声を届けた方が、より気持ちが伝わりやすくなります。

11 あの日の夢

東中 二年 黒田 七海

「三月十二日」、東日本大震災の時、

私は幼稚園でお昼寝の時間でした。

ニュースでは、津波の映像が流れ、本当にショックでした。

私たちの地域でも被害がありました。ボランティアや自衛隊の方々により助けられました。

私はあの日のことを決して忘れず、困っている人を迷わず助けられる人になりたいと思います。

12 言葉が招く差別

東中 二年 宮島 彩綺

世の中には「女なのに」「男なのに」という決まりのような考え方が出来ていて、私もそれに何の疑問も持たないでいました。しかし、それは差別ではないかと思うようになりました。

言葉は時に偏見を生みます。戦争までも引き起こしてしまいます。

私は「差別」という過ちを決して犯すことのないように、言葉の二言三言に留意したいと思います。

高校生の部

13 人間関係について

思うこと

江戸崎総合高 一年 小野 美空

私の身の回りには、三つの人間関係があります。一つ目は教室での友達との関係です。二つ目は家での家族との関係。三つ目は部活動での関係です。



14 社会人になるための心構え

江戸崎総合高 三年 宮本 大和

社会の一員として会社で働き、地域に貢献する大人になるために、高校卒業までにやっておきたいことは、

- 一、ニュースや新聞を見て世の中の出来事や時代の流れを知ること
- 二、洗濯や掃除などの基本的な生活を自分でできるようにすること

この二つを身につけて、社会人としての第一歩を踏み出したいと思っています。

主張大会で発表した作文の全文が掲載された作品集が、市役所庁舎、公民館、図書館にあります。ぜひご覧ください。

※市役所庁舎、公民館に置かれているものについてはご自由にお持ち帰りください。

いなしきの歴史を見て学ぼう (新利根編)



釈迦堂（寝釈迦）

十月二十日（土）、さわやかな秋晴れの下、親子十四人を乗せた歴史めぐりのバスは、最初の目的地、下根本の寝釈迦で有名な時宗「阿弥陀寺の釈迦堂」へと向かいました。最初に釈迦堂の中に横たわる釈迦如来像を見てから、本堂へ入りました。ご住職からの説明で先ほど見た寝釈迦は、頭を北にして顔を西に向けて亡くなった時の姿であること、身長は一九二センチメートルであることなどを知り、皆さん熱心にメモを取っていました。

次に向かったのは柴崎の「平井家住宅」です。江戸時代に築かれ、約三五〇年の歴史を持つ茅葺き屋根の国指定重要文化財の建物です。今この住宅には住んでいませんが、当時のにぎやかな生活の様子が思い浮かびました。現在も個人所有のこの住宅を維持するには、大変なご苦労があると感じました。

三番目は小野の観音様で有名な天台宗「逢善寺」です。建物や彫刻等沢山の県指定文化財を所有する寺院です。最初に通る仁王門には徳川家の葵のご紋、荘厳な本堂の屋根には天皇家の菊のご紋が輝いており、往時の「逢善寺」の勢いを垣間見ました。ここでも本堂に上がりご住職から説明を受けました。今回は特別に本堂内陣に入らせていただき、修復中の二十八武衆の木造を拝見することが出来ました。

最後は下太田の曹洞宗「智心院」です。このお寺には、県指定文化財の、江戸崎城主土岐氏最後の当主土岐頼英の夫人「虎姫」の肖像が安置されていました。虎姫が何歳の頃の



平井家住宅



釈迦堂



釈迦堂



逢善寺 (仁王門・金剛力士像)



平井家住宅



平井家住宅

参加者感想

絵が分からないのですが、当時としては美人だったそうです。当初この絵は巻物だったのですが、何回も開閉する度に傷むので額縁に表装したとのことでした。

今回は阿弥陀寺ご住職、平井家住宅の平井様、逢善寺のご住職、智心院ご住職の皆様は大変お世話になりました。また、稲敷市歴史民俗資料館の平田満男様にも訪問場所の選定や資料の確認、当日の説明等でご尽力いただきました。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

●子どもを連れてお寺に行く機会がなかったで、子どもにとって、とても勉強になる講座でした。

●どの場所も初めて訪れる場所ばかりで、稲敷は何もないところではないと感じました。どこの場所にも歴史があり、今回、子どもがこの講座に参加できたので、これをきっかけに歴史に興味を持ってくれたらと思います。

●稲敷に住んでも知らないところばかりでした。とても楽しく見学させていただきました。まだまだ知らない場所を見学したいです。

●子どもにとっても親にとっても良い経験が出来ました。身近な歴史を分かりやすく説明いただき、大変勉強になりました。



智心院 (土岐頼英夫人肖像画)



智心院



智心院



逢善寺 (本堂)

中学生に夢を与える講演会

夢ある限り努力は無限



講師

茨城ゴールデンゴールズ・選手兼監督、タレント

片岡 安祐美 氏

1986年熊本県熊本市生まれ。2005年欽ちゃん球団茨城ゴールデンゴールズ入団。2011年茨城ゴールデンゴールズの選手兼監督に就任。2014年第39回全日本クラブ野球選手権にて、茨城ゴールデンゴールズが優勝。大会史上初の女性の優勝監督となる。女子野球日本代表に5度選出。テレビ、ラジオ等、様々なメディアで活躍を続けている。

平成30年8月21日(火) 江戸崎公民館



片岡安祐美先生はタレントとしても活躍されていますが、今回の受講生の江戸崎中学校と桜川中学校の生徒の皆さんにとりましては、茨城ゴールデンゴールズの監督としての方が身近な存在であると思います。

小学校三年から野球を始め、高校卒業まで野球部員として過ごされた片岡先生ですが、中学生の時に悩んだこと、萩本欽一さんと出会った時に将来の夢について聞かれたこと、九州の実家を離れて初めて一人暮らしを始めたのが江戸崎だったことなど、たくさんのエピソードに心を引かれました。

中学生にとって、人生の中で今が一番これからの夢を考える大事な時期であるため、講演が終わると、生徒の皆さんから多くの質問が出されました。片岡先生



はそれら一つ一つに対し丁寧に答えて下さいました。それらの中から二つだけQ&Aの形でご紹介します。

Q 部活でへこんだ時の立ち直り方を教えてください。

A 自信を無くした時は、視野が狭くなりがちです。一歩引いて自分を見つめ直したり、周りの友達から自分を見てもらったりして、悪いところを直すようにしてください。

Q お母さんに「収入が安定しないから」という理由で将来の夢を反対されました。

A 親は自分の子供には安心して生きる生活を送ってもらいたいと思っています。

お母さんには根気強く説明し、これからも時間をかけて自分の夢をかなえるための努力を続けければ、いつの日か、お母さんも応援してくれるようになると思います。



第6回

稲敷市子ども会育成連合会
青少年育成稲敷市民会議

ボランティア清掃活動



12月1日(土)、霞ヶ浦湖畔の浮島にある和田公園周辺の清掃活動を行いました。140名を超える親子のみなさんにご参加いただくことができました。

子どもたちに話し掛けながらゴミを拾い、道行く人や釣り人からの応援も受けました。次第にゴミ袋の中身が重くなり、当初冬の訪れを感じた寒さも終わるころには上着がいらなくらいの汗をかいていました。

この日の湖の色は空よりも青く、かいつぶりや冬の蝶が岬近くで遊び、松林には涼しい風が吹き、この辺りに住む人たちがうらやましく思えました。誇れるこの場所を大事にしたい気持ち、また、自慢したい気持ちになりました。

自然の中にはゴミは似合いません。

一人一人が自分のゴミをきちんと持ち帰る。当たり前前行動・道徳を小さな頃から育てたいと思いました。そして、その当たり前前が根付くことが、「郷土を守ること」だと感じました。ご参加してくださった方々、本当にありがとうございました。

Before



After



平成30年度 あいさつ運動等 活動報告

青少年育成稲敷市民会議では、「あいさつには“あい”がある」をテーマに市内小中学校であいさつ運動を実施しております。市内の各団体にもご協力をいただき、秋のあいさつ運動では約90名の方にご協力いただきました。また、10月22日(月)には、あいさつに関する標語を印刷したのぼり旗も、市内全小中学校に配付いたしました。

「あいさつができる」ということは青少年が健全に育成するために必要不可欠な基本です。今年の4月には春のあいさつ運動が予定されています。今後も継続して事業を行うにあたり、皆様の益々のご理解とご協力をお願いいたします。

● あいさつ運動【11月】の実施内容

- ・桜川中学校
- ・高田小学校
- ・新利根小学校
- ・あずま東小学校

● あいさつ運動【4月】の実施予定

- ・江戸崎中学校
- ・新利根中学校
- ・阿波小学校
- ・あずま北小学校



新利根小学校



あずま東小学校



高田小学校



新利根小学校



桜川中学校

WAKAKUSA 2019.03 No.28 編集後記



ボランティア活動に参加させて頂いて何年になるのだろう。雪模様の中、編集会議が少しずつ決定され進んでいきます。元号が最終となる広報紙「わかくさ」も28号となり、この号を区切りに何か新しい企画や継続すべきもの等、発想を巡らせ、まだ紹介していないふるさとの良いことや想いを皆とじっくり話し合いながら取り上げてゆきたいと思えます。そして、井の中の蛙にならぬよう様々な地域の人達との交流や意見交換等をして新鮮な紙面作りが出来るよう努力したいと思えます。大切な子ども達の声なき心の声に耳を傾けながら…

篠田 啓子(広報部長)
水飼 茂良
坂本 三三男
小出 智恵
濱田 純男

